

まちの駅クロスピアくみやま 利活用に向けた社会実験業務

まちの駅クロスピアくみやまは平成22年4月に供用を開始し、令和4年4月で丸12年を迎えました。本町の案内・休憩及び産業の情報発信拠点施設として設置し、これまでの間に様々な事業を実施してきましたが、より効果的な活用の方法を検討することで、住民サービスの向上及び指定管理者制度も視野に入れた効率的な管理運営を探るため、社会実験を実施します。

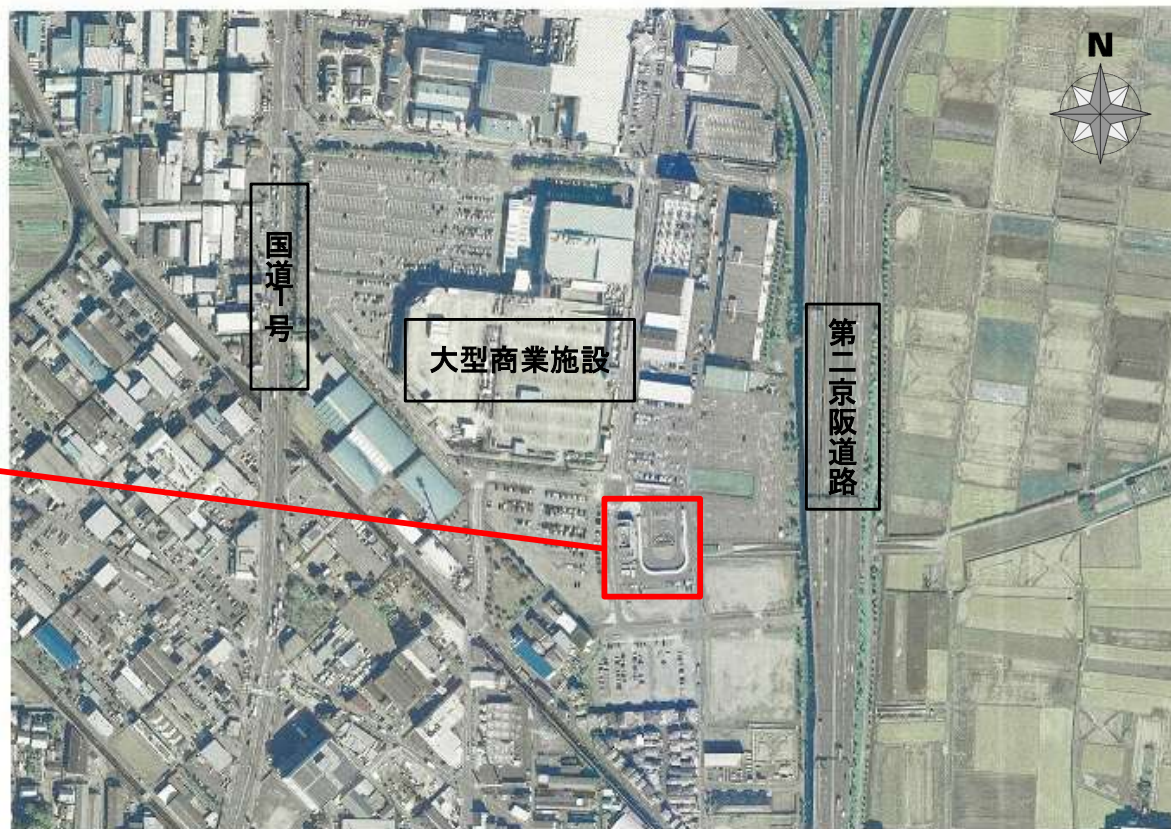
まちの駅クロスピアくみやま

産業情報発信拠点、町内企業の連携の拠点として、また、公共交通のハブ施設として、多くの機能を有しています。本町の産業を活性化するために重要なシンボル施設です。



京都府久世郡久御山町森南大内303番地

まちの駅: 地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人の出会いと交流を促進する空間施設

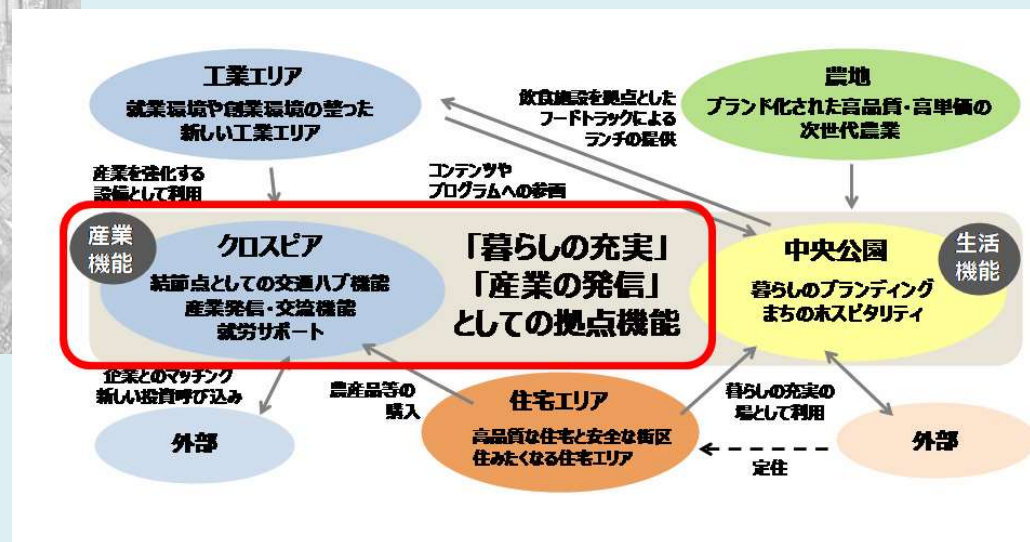
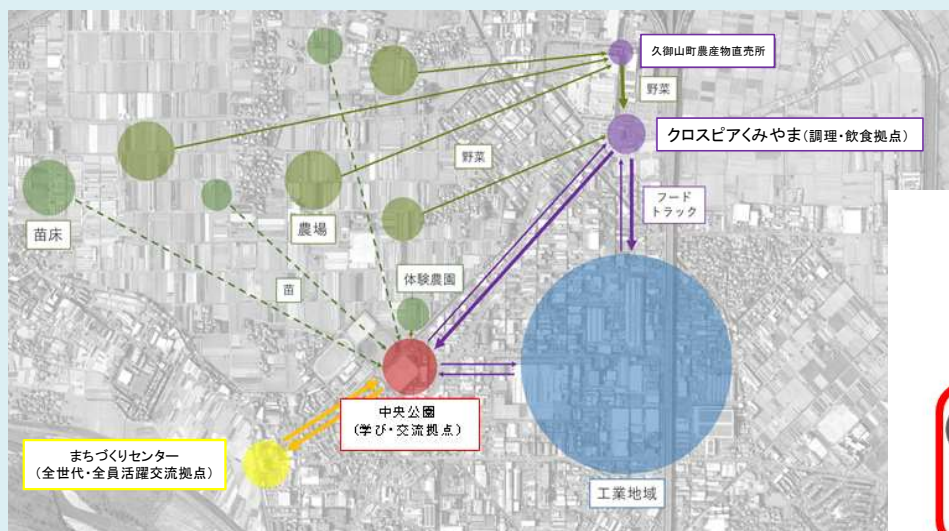


まちの駅クロスピアくみやま 利活用に向けた社会実験業務

久御山「まちなにわ」構想について

「久御山中央公園」及び「クロスピアくみやま」を活用して、「食」戦略に基づいた住×農×工の交流を促すためのビジョンとして、2019年2月に久御山町と京都大学 山口准教授によって「久御山“まちなにわ”構想」が策定されました。

本構想では、住「憩いと食が楽しめる魅力的な住環境づくり」・農「農業を知り、学び、体験できる環境づくり」・工「地産地食による健康な就業環境づくり」のそれぞれの環境づくりを計画しています。



まちの駅クロスピアくみやま 利活用に向けた社会実験業務

施設の概要①



駐車場23台・駐輪場60台

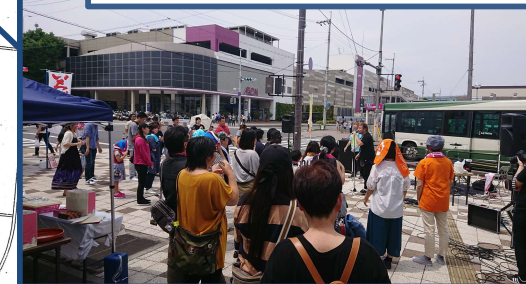


レンタサイクル10台

周辺の土地利用
にぎわい施設の誘致活動展開中



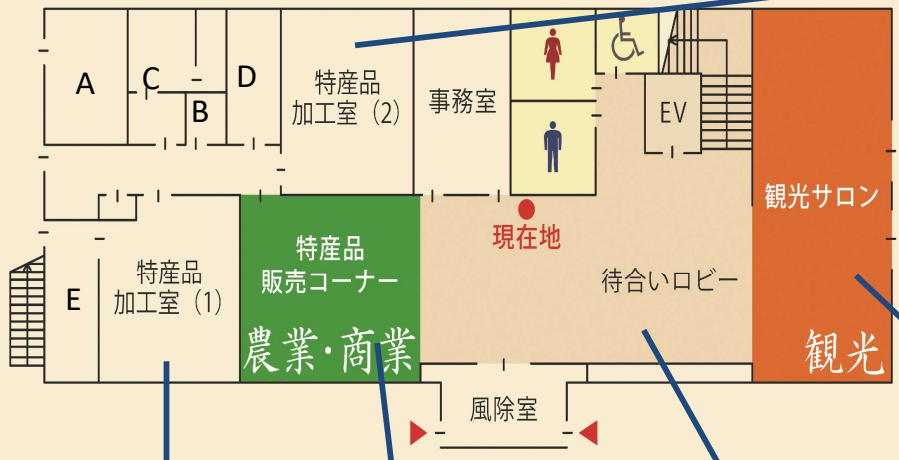
クロスピア市
隣接の大型ショッピングセンターは
年間約1,000万人の利用



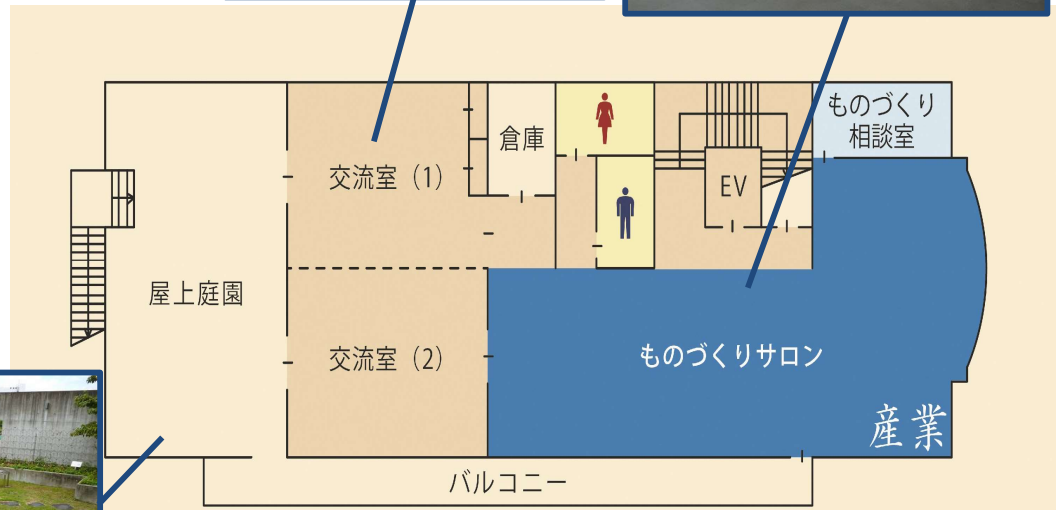
バスターミナル併設
公共交通バスのハブ
約1,000人/日・平日

まちの駅クロスピアくみやま 利活用に向けた社会実験業務

施設の概要②



- A : バス運転手控室
- B : スタッフ用トイレ
- C : スタッフ用休憩室・ロッカー
- D : バックヤード
- E : 加工室1バックヤード



隣接の農産物直売所は約1億円を販売

